

(参考) スケートボードについてお尋ねしました



お話を伺った方 横山 純 一般社団法人日本スケートボード協会 事務局長

東京 2020 オリンピック大会スケートボード日本選手団にスタッフとして参加。自身もスケーター。

去る令和3年10月15日、横浜にある一般社団法人日本スケートボード協会にて横山純事務局長に、消費者庁担当がお話を伺いました。以下は、横山さんからの話を再構成したものです。

◇ 消費者庁担当：早速ですが、東京 2020 オリンピックでスケートボードが正式種目となり、選手たちの活躍もありました。スケートボード愛好者は増えているのではないのでしょうか。

◆ 横山さん：オリンピックの反響はあります。スケートボードのスクールは盛況です。愛好者は土日によく滑っている人からスポーツとして競技に参加するプロ選手まで幅があって、業界ではざっくり 40 万人ぐらいと言っています。日本での競技人口は約 3,000 人です。

◇ スケートボードとはどのようなものなのでしょうか。

◆ スケートボードは一枚の板に金属の部品を介して、車輪が付いた単純な構造で、アメリカの西海岸で木の板に車輪を付けて滑った遊びから始まったとされています。オリンピック種目のストリートやパークのイメージが強いかもしれませんが、他にも様々なスタイルがあって、アートやファッション、音楽などとともに広がったカルチャーです。近年では、滑っているシーンを動画にして自己表現しているスケーターたちもいます。

◇ これからスケートボードを始めたいと考えている人や子どもにやらせたいと考えている保護者などに、

何かアドバイスはありますか。

◆ パーツを揃えるだけなら、1 万円程度で始められ、滑る場所があれば遊べます。保護者が乗っていて、3、4 歳で始める子もいれば、40 歳代で始める方もいます。ただ、スクールで見かけるのですが、保護者がやらせたいがために連れてこられた子や、形だけを模写させようとする保護者もいて、これはかわいそうですね。親子で楽しんでほしいものです。

まず、最初の 1 台は専門店で相談してほしいとお伝えてしています。実はスケートボードは自分で各部品を組み立てて、メンテナンスして、必要に応じて部品を交換していくものなんです。最初からは無理なので、コンプリート（組み立てられている）モデルが良いと思います。上手な子たちはレンチを持ち歩いていて、ネジの締め具合を変えて、滑り心地などを調整しながら遊んでいます。

玩具店などのスケートボード風の玩具とは全然違いますね。ちゃんと整備されていれば、一蹴りで 10m 進みますが、整備されていないと全然滑らず面白くないし、上達しません。

◇ 部品の交換のタイミングはどうですか。

◆ 乗り方によって違います。板の後ろの部分が削れてしまったり、ベアリングが回らなくなったり様々で

す。湿気ではじかないって言うんですが、板が重くなってジャンプの技ができなくなると1週間で買い替えるトップ選手もいます。

分からないことがあれば、専門店で相談してみてください。専門店では初歩的な乗り方や、乗るときのルールやマナーも一緒に教えてくれます。

◇ ルール、マナーですか。

◆ 街中の人通りの多いところで滑って制御できなくなって人にぶつかる、三角コーンを勝手に持ち出して壊してしまう、自走したスケートボードで当て逃げするなど、スケートボード云々というより、愛好者のモラルの問題です。

また、走行音やボードが地面に当たる際のパーンという音など、騒音の問題もあります。夜だとすごく響きます。騒音だけでなく、ごみを片付けるとか、物を壊したら申し出ると言った常識的な行動ができない一部の人の行いが、住民の方に迷惑をかけて公園などでのスケートボード禁止につながっています。協会のウェブサイトでは一番最初に「スケートボード愛好者の皆さん「法律順守」で楽しんでください」、「特に人通りの多い場所や騒音が出る場所では滑らないでください」と表示しています。

◇ 子どもが身近に遊べる場所が限られるのは残念ですね。スケートボードなどを楽しむために作られたスケートパークというものが全国各地にあるそうですが、子どもや初心者が気軽に行ける場所でしょうか。

◆ 市民体育館やプールみたいに公共のもの、スケートボード好きの個人が作った民間の施設など、料金も無料から有料まで様々です。気軽に行ける場所かどうかは、その場所によります。最初から起伏のあるパークに行くのはお勧めできません。初心者は安全な平面の場所で十分に慣れる必要があるのです。そういう場所が増えるといいですね。パークで開催されているスクールに入ってもいいと思います。

パークに行ったら、その場所の注意事項やルールがあるほか、利用者同士で決め事もあつたりするので、地元の子たちの滑り方や立ち振る舞いを見てみてください。

◇ 気になるのは、骨折などの大きなけがです。消費者庁の分析でも頭のけがや腕の骨折をしたという事例が見られます。ヘルメットやプロテクターなどの保護具はどの程度けがの防止に役立ちますか。

◆ スケートボードはもともと不安定な乗り物、転ぶのは当たり前です。打撲や擦り傷は誰でも経験します。腕を伸ばした状態で手をついてしまうと手首や肘に力がかかってしまい、骨折します。上級者になると受け身をとって体全体で転べるから、ジャンプして着地に失敗して足を痛めることの方が多く印象です。肘、膝、手首を守るプロテクターについては、ねじったり、体の下敷きになるようなけがには効果は低いと思われませんが、衝撃が緩和されるので、体全体で転び易くなるかもしれません。

ヘルメットについては、頭部のけがを最小限にするという意味で大切です。協会が主催している大会では全選手に着用義務をお願いしていますが、オリンピックでは18歳未満はヘルメット着用となりました。付けていない人がいるのは事実ですが、けがのリスクはスケーターなら分かっていることなので、ヘルメットやプロテクターを付けていてもダサいと言う風潮はありません。そこは自分で考えて付けるようにしたらいいと思います。

◇ スケートボードに限らずですが、遊びやスポーツには程度の差はあれ、「けがをするリスクがある」という認識が大切ですね。もっとお話を伺いたいところですが、最後に一言お願いできますか。

◆ スケートボードというとトリック（ジャンプなどの技）を決めるというイメージがあるかもしれませんが、横乗りで進んでいくだけでも、日常にはない何とも言えない滑走の快感があります。良くないイメージを持たれている方も少なからずいると思いますが、自分たちが楽しめるようにルールやマナーを守っている地元の子たちが大半です。皆さんもマナーやルールも忘れずにスケートボードを楽しんでみてください。

◇ 今日は、貴重なお話をありがとうございました。